

## 「みことばの分かち合い」 11月

担当司祭：野田正弘

「聖書を知らないことは、キリストを知らないことである」と聖ヒエロニムスは言いました。

また前教皇ベネディクト 16世は、2006年の世界青年の日のメッセージとして「聖書をいつも手に携えてください。それは、聖書が皆さんにとって、行くべき道を指し示す羅針盤となるためです。聖書を読むことによって、皆さんはキリストを知るようになります」と言われました。

神は今を生きる私たちに、みことばを通して語りかけ、道を照らしていただきます。

今回も、11月の福音から、み言葉への導入を書かせていただきます。

「聖書と典礼」を手元に置いていただいて、主日の聖書箇所を共に味わって参りましょう。

### 諸聖人 11月1日

**福音：マタイ5:1-12a 喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある**

今日、教会はすべての聖人を記念します。多くのキリスト者は、イエスさまの教えを実践することによって、神の愛の証人となり、今は天国において神とともに、私たちを見守ってくださっています。今日の祝いは、私たちを聖性へと招いています。それはイエスさまの教えを生きることによって聖人たちの仲間になるようにとの招きです。真福八端（マタイ5:3-10）が私たちに示している真の幸せへの道です。私たちも毎日の生活の中で、イエスさまなら選ばれるであろう道を私たちも選んでいけますように祈りましょう。

### 年間第32主日 11月8日

**福音：マタイ25:1-13 花婿だ。迎えに出なさい**

イエスさまは終末の時についてはっきりと言われました。それは今すぐに来るわけではない、しかしある日、予期せぬ時にそれは来ると。それ故、イエスさまは警告されます。注意して準備していなさいと。だから真の弟子は、主の到来が遅れているからといって油断はしません。むしろ彼らは、日々の生活の中でイエスさまとの出会いの日にむけての準備をしています。待つことは、消極的に何もしないで立っていることではありません。私たちが日々の生活の中で出会う小さな人々の中におられるイエスさまに気づき、その出会いを大切にしながら、最終的なイエスさまとの出会いの良い準備をすることが出来ますように祈りましょう。

### 年間第33主日 11月15日

**福音：マタイ25:14-30 お前は少しのものに忠実であった。主人と一緒に喜んでくれ**

今年も典礼暦の終わりが近づいてきました。そして福音は主の再臨と、それに向けてどのように準備するかについてのメッセージを示しています。私たちはこの世において各々異なったタレントが与えられています。しかしそれがどのようなものであるかということよりも、それを他の人のためにどのように使うかが問われています。配偶者、友人、隣人に対しての愛の行いは、どんなに小さなものであっても、それは世界を変える力を持っています。イエスさまとともに小さな愛の行いを実践できるように祈りましょう。

### 王であるキリスト 11月22日

**福音：マタイ25:31-46 人の子はその栄光の座に着く。そして、すべての国の民をより分ける**

典礼暦最後の主日である今日、私たちは主イエス・キリストが王であることを祝います。1925年、教皇ピオ11世によって、世俗化への警告として定められたこの祝いは、全世界の権威と個人とを超える王としてのキリストを宣言しています。しかしこの王は、すべてを自らの思うままに支配される王ではありません。むしろすべてを支え、配慮する王なのです。「今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、このように装ってください」（マタイ6:30）神なのです。その王が支え、配慮される神の国の民であることを、互いに親切にしあい、助け合うことによって示していけますように。

### 待降節第1主日 11月29日

**福音：マルコ13:33-37 目を覚ましていなさい。いつ家の主人が帰って来るのか、あなたがたには分からない**

## からである

待降節をもって教会は新しい典礼暦を始めます。待降節は「主の日」の到来を私たちに準備させます。第1にそれはクリスマスにおける受肉の祝いであり、第2に最後の日の主の到来でもあります。救い主の到来の準備のために、私たちはどのようにすればいいのでしょうか。今日の聖書朗読箇所はこの問いに答える助けとなります。それは私たちの主イエスの予期せぬ到来への心構えであり、いつも死を意識するようにとの促しです。私たちが日々出会う人とその人の中におられるキリストを歓迎することによって、いつもキリストとともに歩んでいけますように。